

■■メールマガジン「静岡県防災」第57号■■

～ 11月は「地震防災強化月間」です ～

毎年11月の「地震防災強化月間」は、12月第1日曜日の「地域防災の日」を中心に実施される地域防災訓練に向け、県及び市町が地域の防災力を高めるための広報・啓発活動などを集中的に実施し、防災に対する県民意識の効果的な高揚を図ることを目的としています。

令和6年度の「地震防災強化月間」のスローガンは、「備えてた 過去の私に ありがとう」です。

今月のメールマガジンでは、スローガンにちなんだ、テーマを内閣府（防災担当）が作成・公開しているエピソード集「一日前プロジェクト」からご紹介します。

東日本大震災（平成23年3月）

「団仲間に示しつかない」と率先避難を家族に指示

（宮古市 50代 男性 消防団員）

私の家族は、震災2日前の地震のときに避難しなかったのです。私はそれを聞いて、非常に怒りました。

「何はさておき、逃げろ。消防団の仲間にも、住民にも示しがつかないじゃないか」と。おかげで震災当日は、無事に逃げおおせて助かったのです。

そのうえ、家族は周囲の人にも迅速な避難を促すこともできたそうです。

私が山火事の消火に行くとき、団員の中に家族が行方不明の人がいました。

まず彼には、家族を探すように言いましたが、「家族がいないのは心配だが、かといって1人でウロウロ探しても…」と躊躇（ちゅうちょ）している。

これまでも、消防団員は個人的なことを後回しにしてしまいがちです。こうした議論はいつも行われてきました。

団内でも様々な意見があって、「家族の安否を確認してもらってから、団員の活動をしてもらうべき」、「身内の心配があると、団の活動も本気になれない」という声です。

団員も人の子ですから、こうした指摘には一理あります。

ですから、だれもが少しでも身近な心配事をなくすようにするため、事前に家族と相談して「迅速な避難」を心がけるよう徹底しておくべきでしょう。

これが、非常時であっても、判断力を鈍らせない唯一の方法ではないでしょうか。

内閣府（防災担当）一日前プロジェクト HP リンク

<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/sgs/jt.html>